2024年2月21日
すみだ北斎美術館

企画展

歌舞音曲鑑（かぶおんぎょくかがみ）北斎と楽しむ江戸の芸能
THEATER, DANCE, MUSIC – ENJOY THE EDO PERFORMING ARTS WITH HOKUSAI

展示構成や見どころ、関連イベントのご案内

すみだ北斎美術館（東京・墨田区）は2024年3月19日（火）から5月26日（日）まで企画展「歌舞音曲鑑　北斎と楽しむ江戸の芸能」を開催いたします。浮世絵師・葛飾北斎（1760-1849）や門人が描いた江戸の芸能をモチーフとした作品を前期、後期あわせて約125点展示する展覧会です。これまでの研究では、北斎は勝川派を離れてから役者絵をほとんど描いていないとされてきました。実際に春朗期のような歌舞伎の役者絵は、今のところ確認されていません。しかし、勝川派離脱後も音曲や舞踊など、芝居に関連する作品を多く描いています。本展の展示構成や見どころ、新しい関連イベントをご紹介いたします。

本展の見どころ

◎浮世絵師として駆け出しの頃の役者絵

「冨嶽三十六景」シリーズを発表する約50年前、北斎は19歳で浮世絵師・勝川春章に入門し、その翌年から歌舞伎の役者絵などを発表。浮世絵師・勝川春朗（しゅんろう）として第一歩を踏み出しました。本展では、春朗期役者絵18点（前期9点、後期9点）を展観します。初展示の作品も含まれます。北斎がデビューしたての頃の作品がまとまって展示される希少な機会となります。

◎北斎と楽しむ江戸の芸能

北斎は、勝川派離脱後も音曲や舞踊など、芝居に関連する作品を多く描いています。完全な形で残っていることが少ない音曲などの披露会案内状として作られた摺物（すりもの）24点（前期、後期で12点ずつ）を展示します。また、北斎が描いた雀踊りや悪玉おどりを紹介するとともに、悪玉おどりをアニメーション化した映像を展示します。北斎の幅広い画業がうかがわれる作品の数々をお楽しみください。

◎北斎も芝居が好きだった！

長寿だった北斎ならではのエピソードとして、文化8年（52歳の頃）と嘉永元年（晩年に近い89歳の頃）に、同じ芝居の再上演を観て、その2つを比較した感想が残されています。まさに北斎が観た芝居の上演の様子とともに、北斎の感想もご紹介します。さらに、当館常設展示にて推定復元図を展示している「須佐之男命厄神退治之図」について、北斎の作画に浄瑠璃の影響があった可能性もご紹介します。

■展示構成

※本展は、展示構成で通常「章」「節」と称している区分けを、展示内容に合わせ、「幕」「場」としています。

一幕目　北斎が役者絵を描いていた頃
・第一場　江戸の芝居町
・第二場　勝川派と春朗期の役者絵
二幕目　北斎と江戸の芸能
・第一場　披露会摺物の世界
・第二場　浄瑠璃人気と『絵本 浄瑠璃絶句』の世界
三幕目　踊りさまざま
・第一場　観て楽しむ　踊りあれこれ
・第二場　踊って楽しむ　独学のススメ
大切　北斎と芝居

▶次ページにて各幕の主な出品作品をご紹介します。

ひと、つながる。墨田区

報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館　広報・プロモーショングループ
野田 / 中原 / 田中 / アシスタント高橋
TEL　03-6658-8991　/　FAX　03-6658-8992
Email　hm-pr@hokusai-museum.jp

すみだ北斎美術館

※本プレスリリースでは、北斎の年齢は全て数え年で表記しています。

《一幕目　北斎が役者絵を描いていた頃》

「大波」「赤富士」と通称されるほど親しまれている「冨嶽三十六景」シリーズの「神奈川沖浪裏」や「凱風快晴」を描いた北斎。今や世界中の人々から高く評価されていますが、その北斎にも駆け出しの頃はありました。「冨嶽三十六景」シリーズを発表する約50年前、19歳で浮世絵師・勝川春章（かつかわしゅんしょう、1726-92）に入門し、その翌年に歌舞伎役者を描いた錦絵を発表しています。その頃、江戸の芝居小屋は堺町・葺屋町（いずれも現在の東京・日本橋人形町界隈）と木挽町（同・東銀座界隈）にありました。芝居小屋のあったエリアの町と芝居町の町並み、さらに芝居小屋の正面から内部の様子を絵図・錦絵・版本を介して紹介します。

芝居小屋の内部

左：「浮絵元祖東都歌舞岐大芝居之図」（前期）、右：『東都勝景一覧』下　境町（通期）※1　　いずれも葛飾北斎画、すみだ北斎美術館蔵

※1 半期で同タイトルの作品に展示替えをします。

左の図は、芝居小屋の内部が、浮絵（うきえ）と呼ばれる遠近法の一種で描かれています。当時の芝居小屋の内部構造を知る上でも興味深い作品です。右の図は、舞台側から客席側を望む構図が珍しく、役者は全員後ろ姿で描かれ、道具類も裏側が見えています。観客たちの表情も見える作品です。

デビューしたて！春朗期の役者絵18点

初公開

ここでは、北斎の浮世絵師としてのデビュー作の一つといわれる「四代目岩井半四郎　かしく」（左）を含む、当館所蔵の春朗期役者絵18点（前期9点、後期9点）を展観。春章に入門し、研鑽を積んでいった春朗期役者絵の推移をたどります。デビューしたばかりの北斎の作品をまとまって展示する機会は希少です。

中でも「三代目瀬川菊之丞　白拍子」（右）は、北斎が「勝春朗」と落款していた、春朗期のなかでも早い時期に制作された作品です。**当館のほかに国内の所蔵が確認されていない作品で、初公開となります。**

左：葛飾北斎「四代目岩井半四郎　かしく」すみだ北斎美術館蔵（前期）
安永8年（1779）
右：葛飾北斎「三代目瀬川菊之丞　白拍子」すみだ北斎美術館蔵（後期）
天明3年（1783）　初公開

北斎・蔦屋・焉馬による富本節の正本（台本）

葛飾北斎『初紋日花街蓬莱』国立音楽大学付属図書館蔵（通期）
※こちらの作品をご紹介いただける場合は、事前に広報へご相談ください。

北斎は錦絵だけでなく、絵表紙正本（えびょうししょうほん）と呼ばれる音曲の詞章（ししょう）を冊子にした富本節の正本表紙を描いています。その中には、表紙の絵を北斎が描き、蔦屋重三郎から出版された、烏亭焉馬*による詞章の絵表紙正本もあります。**北斎と蔦屋、焉馬の 3 名が顔を揃えた早い時期の作品と考えられます。**

*烏亭焉馬（うていえんば、1743-1822）…落語中興の祖といわれ、当館所蔵の北斎肉筆画「隅田川両岸景色図巻」の注文主でもある人物

《二幕目　北斎と江戸の芸能》

北斎は 35 歳頃に勝川派を離れ、その後は役者絵を描いていないと言われてきました。今のところ、春朗期のような役者絵は確認されていませんが、芝居に関連する音曲など、芸能をモチーフとした作品は残されています。

音曲のおさらい会や襲名披露会などの案内状

北斎は寛政期（1789-1801）から文化期（1804-18）にかけて、摺物（すりもの）と呼ばれる私的な非売品の印刷物を多く手がけています。今回は披露会摺物 24 点（前期、後期で 12 点ずつ）の一部作品を四方からご覧いただけるように平置きで展示します。

葛飾北斎「座敷舞踊」すみだ北斎美術館蔵（後期）

ここで紹介する大きな判型の摺物は、音曲のおさらい会や襲名披露会などの案内状として作られました。大奉書全紙判（約 39.4cm×53cm）を二つ折りにし、片側に絵を、もう片側に文字情報を摺り、さらに三つ折りにして配られました。文字部分が失われ、絵の部分だけが残る作品も多く、完全な形で残る作品は希少です。公開は 24 点のうち 12 点（前期、後期 6 点ずつ）が完全な形で残っているものです。全体像が不明なことから、これらの摺物はこれまでまとまった研究がほとんどされていません。各所で所蔵されている図を比較すると、絵の一部が変更されているものや、図柄は同一で文字部分が異なる作品が存在するものもあり、どのように制作されていたのか、興味深いものがあります。

浄瑠璃人気と北斎

葛飾北斎『絵本 浄瑠璃絶句』すみだ北斎美術館蔵（頁を替えて通期展示）
右：恋女房染分手綱　三吉不礼の段（前期）
左：仮名手本忠臣蔵　九たん目（後期）

天明 2 年(1782)に鳥居清長（1752-1815）が錦絵の出語り*図を発表した頃、常磐津節や富本節などに名人が現れたことで、人々の間で浄瑠璃*の人気が高まりました。庶民も浄瑠璃を楽しむようになり、稽古をする人たちのために稽古本も出版されました。

北斎も、有名な浄瑠璃の聴きどころに絵を付けた『絵本　浄瑠璃絶句』を発表します。初版本は昭和初期にすでに稀覯本となっていますが、タイトルを変えた後摺本や絵葉書など、明治以降もさまざまな形で出版され続けています。ここでは『絵本　浄瑠璃絶句』にとりあげられた浄瑠璃の紹介と、人々の間で長きにわたって浄瑠璃の人気が高かったことを示す作品を展観します。また、北斎と浄瑠璃の繋がりに、戯作者・柳亭種彦（りゅうていたねひこ、1783-1842）の関わりがうかがわれる読本『勢田橋竜女本地』を紹介します。

*出語り…通常は御簾（みす）の内側にいる浄瑠璃の太夫（語り手）が人形浄瑠璃や歌舞伎の舞台上に並び、観客に姿を見せて語ることをいいます。

*浄瑠璃…「浄瑠璃」と聞くと、人形浄瑠璃が思い浮かぶ方も多いでしょう。もともとは、三味線を伴奏楽器とする語り物の芸能のことを総称して指す言葉です。17 世紀末に浄瑠璃の一派として義太夫節が成立し、特に近松門左衛門の登場により発展しました。後に、常磐津節、富本節、清元節など多くの流派が生まれ、長唄を伴奏としていた歌舞伎の所作事（歌舞伎の演目のうち、舞踊や舞踊劇にあたるもの）にも取り入れられるようになりました。

《三幕目　踊りさまざま》

北斎は、吉原仁和嘉（よしわらにわか）と呼ばれる吉原の芸者たちが即興で演じ、見物人の目を楽しませた踊りから庶民が楽しむ盆踊りまで、さまざまな踊りを描いています。北斎が描いた観て楽しむ踊りから、実際に踊って楽しむ踊りなどを紹介します。

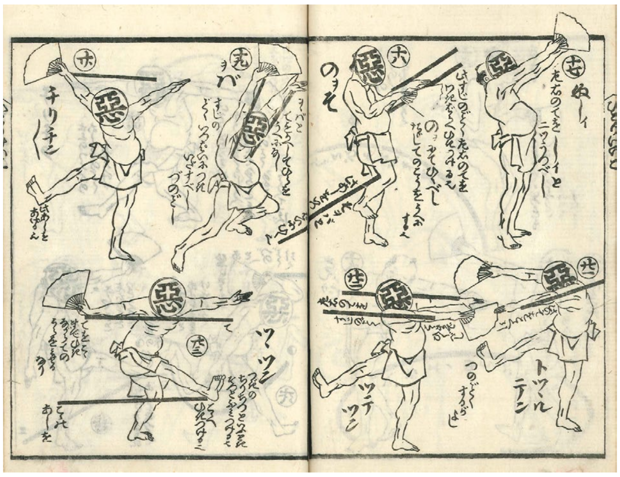
河鍋暁斎が旧蔵した、北斎のすずめ踊り

葛飾北斎「すずめ踊り」すみだ北斎美術館蔵（前期）初公開

北斎は様々な踊りを描いていますが、中でも雀踊りは人気が高かったのか、そのモチーフは皿や碗などにも取り入れられています。

本図はすずめ踊りの行列が描かれ、一人の人が踊りながら進んでいくアニメーションのコマのようにも見えます。踊る姿を軽やかにとらえた北斎の肉筆画です。落款から北斎が 80 歳の時に描いたことがわかります。また、右側には「暁斎」印と「明治癸未一月五日　改　暁」とあることから、明治 16 年(1883）時点では浮世絵師の河鍋暁斎（1831-89）が所蔵していたことがわかります。

独学のススメ 悪玉おどり



葛飾北斎『踊独稽古』すみだ北斎美術館蔵（通期）

『踊独稽古』は踊りの教則本として作られた絵手本です。人間の身体の動きを的確にとらえて描いており、ところどころには動きの指示が入っています。ここでは作品展示に加え異なるページもパネルで紹介するほか、悪玉おどりをアニメーション化した映像も展示します。北斎の描いた悪玉が踊る姿をお楽しみください。

《大切　北斎と芝居》

大切（おおぎり）は、歌舞伎興行で一日の最後につける一幕をいいます。最後の一幕では、北斎と芝居のつながりを観劇記録と最晩年の作品からたどっていきます。

北斎の観た芝居

北斎は、文化 8 年（1811、52 歳頃）に観た芝居「吾妻花岩井内裡（あずまのはないわいのだいり）」の再上演「東都内裡花能門（あずまだいりはなもよしかど）」を嘉永元年（1848、89 歳頃）に再び観劇し、その２つを比較した感想が『歌舞伎年代記』続編に記録されています。ここでは、北斎が実際に観劇した芝居について、北斎の感想や歌川派の絵師による役者絵とともに紹介します。

厄神たちから〈手形を取る〉スサノオ

当館では、北斎が 86 歳の時に制作した「須佐之男命厄神退治之図」（関東大震災にて焼失）の推定復元図を常設展示しています。スサノオが厄神たちから手形を取る様子が描かれた大絵馬です。本作のモチーフと同じ内容を持つ浄瑠璃『日本振袖始』について、北斎の作画に浄瑠璃の影響があった可能性を紹介します。

江戸川北輝「本朝振袖之始素盞烏尊妖怪降伏之図」
すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

企画展「歌舞音曲鑑　北斎と楽しむ江戸の芸能」開催概要

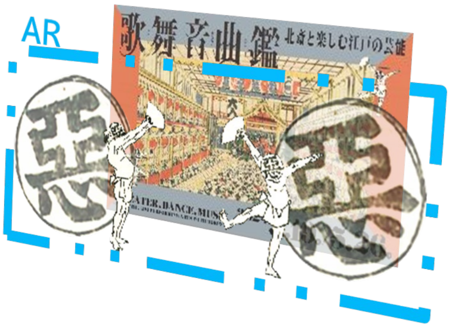
展覧会名	歌舞音曲鑑（かぶおんぎょくかがみ）　北斎と楽しむ江戸の芸能
会期	2024年3月19日（火）～5月26日（日）　※前後期で一部展示替えを実施 前期：3月19日（火）～4月21日（日）、後期：4月23日（火）～5月26日（日）
休館日	毎週月曜日 ※開館：4月29日（月・祝）、5月6日（月・振休）、休館：4月30日（火）、5月7日（火）
会場	すみだ北斎美術館　3階企画展示室
開館時間	9:30～17:30　（入館は17:00まで）
主催	墨田区・すみだ北斎美術館
観覧料	一般1,000円、高校生・大学生700円、65歳以上700円、中学生300円、障がい者300円、小学生以下無料
ホームページ	https://hokusai-museum.jp/Kabuongyoku/

●観覧日当日に限り、AURORA（常設展示室）、常設展プラスもご覧になれます。
●一般以外の料金対象者は年齢等の確認できるものをお持ちください。
●障害者手帳をご提示の方は、付添の方1名まで障がい者料金でご覧いただけます。
●前売券及び当日観覧券の発売日・販売方法や、各種割引の詳細、団体でのご来館、最新のイベント情報は、すみだ北斎美術館公式ホームページをご覧ください。

AR　ＡＲで北斎の悪玉おどりと写真を撮ろう！フォトスポット

会場設置のＱＲコードをスマートフォンで読み取りフォトスポットにかざすと、北斎が描いた悪玉おどりがＡＲで出現します。展覧会鑑賞とあわせ、記念撮影をお楽しみください。

・期間　2024年3月19日（火）～5月26日（日）　※休館日を除く
・会場　すみだ北斎美術館　3階ホワイエ
・料金　無料
（ただし、企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）
*AR体験のインターネット通信料はお客様のご負担となります。
*展示室では使用しないでください。



※イメージです。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

■展覧会リーフレットを3月19日（火）から発売

展覧会の構成に沿って、オールカラーで見どころをたどることができるリーフレットです。今回のリーフレットは、本展二幕目第一場で紹介する「披露会摺物」のように折った形状にしています。リーフレット掲載のＱＲコードから解説の英訳も読むことができます。

・価格　350円（税込）
・発売日　2024年3月19日（火）
・販売場所　1階ミュージアムショップ
・通信販売も行います。
詳細はこちら>https://hokusai-museum.jp/modules/Page/pages/view/609

常設展プラス「隅田川両岸景色図巻（複製画）と北斎漫画」予定

会期	2024年3月19日（火）～5月26日（日）予定
休館日	毎週月曜日　※開館：4月29日（月・祝）、5月6日（月・振休）、休館：4月30日（火）、5月7日（火）
会場	すみだ北斎美術館　4階企画展示室
開館時間	9:30～17:30　（入館は17:00まで）
主催	墨田区・すみだ北斎美術館
観覧料	一般700円、高校生・大学生600円、65歳以上600円、中学生200円、障がい者200円、小学生以下無料

●観覧日当日に限り、AURORA（常設展示室）もご覧になれます。
●一般以外の料金対象者は年齢等の確認できるものをお持ちください。
●障害者手帳をご提示の方は、付添の方1名まで障がい者料金でご覧いただけます。

企画展「歌舞音曲鑑　北斎と楽しむ江戸の芸能」
展覧会広報用　作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

≪　画像貸出に関して注意事項　≫
・画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
・画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。
　本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
・画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
・画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
・ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
・展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の画像にチェックをお願いいたします。

☐ 企画展「歌舞音曲鑑」チラシ表面
☐ 企画展「歌舞音曲鑑」横長バナー（1366px×500px）
☐ 葛飾北斎「浮絵元祖東都歌舞岐大芝居之図」すみだ北斎美術館蔵（前期）
☐ 葛飾北斎『東都勝景一覧』下　境町　すみだ北斎美術館蔵（通期）※1
☐ 葛飾北斎「四代目岩井半四郎　かしく」すみだ北斎美術館蔵（前期）
☐ 葛飾北斎「三代目瀬川菊之丞　白拍子」すみだ北斎美術館蔵（後期）
☐ 葛飾北斎「座敷舞踊」すみだ北斎美術館蔵（後期）
☐ 葛飾北斎『絵本 浄瑠璃絶句』すみだ北斎美術館蔵（頁を替えて通期展示）
　右：恋女房染分手綱　三吉不礼の段（前期）、左：仮名手本忠臣蔵　九たん目（後期）
☐ 葛飾北斎「すずめ踊り」すみだ北斎美術館蔵（前期）
☐ 葛飾北斎『踊独稽古』すみだ北斎美術館蔵（通期）
☐ 江戸川北輝「本朝振袖之始素盞鳥尊妖怪降伏之図」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

※1　半期で同タイトルの作品に展示替えをします。

貴社名｜		
貴媒体名｜		
部署名｜	（役職名　　　　）	
ご芳名｜		
ご連絡先　TEL｜	FAX｜	E-mail｜
ご掲載・放送予定	**月**	**日**
備考　｜　※ご要望などございましたらご記入下さい。		

ひと、つながる。墨田区

報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館　広報・プロモーショングループ
野田 / 中原 / 田中 / アシスタント高橋
TEL　03-6658-8991　/　FAX　03-6658-8992
Email　hm-pr@hokusai-museum.jp

すみだ北斎美術館